小　学　校

平成２８年度

教育研究員研究報告書

生　活

東京都教育委員会

目　次

Ⅰ　研究主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

Ⅱ　研究の視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

Ⅲ　研究仮説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

Ⅳ　研究の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

Ⅴ　研究の内容
　１　研究構想図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
　２　基礎研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
　３　調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
　４　実践研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５
　　検証授業１　第１学年「みんなであそぼう　はるなつあきふゆ～なつとなかよし～」
　　検証授業２　第２学年「はっけん　くふう　おもちゃづくり」
　　検証授業３　第２学年「うごく　うごく　わたしのおもちゃ」

Ⅵ　研究の成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４

※平成２８年１１月末作成

研究主題

主体的に学び合う児童を育成する指導の工夫

Ⅰ　研究主題設定の理由

生活科の教科目標には、「具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然との関わりに関心をもち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程おいて生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う」と示されているように、具体的な活動や体験を通して学ぶことが大切であるとされている。そして、小学校学習指導要領解説生活編には、活動や体験だけではなく、活動や体験を通して表現することも含まれていると示されている。

「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ（平成 28 年８月文部科学省）」（以下、「審議のまとめ」と表記）では、現行学習指導要領の成果と課題として、生活科に関して以下のことが述べられている。

○　各小学校においては、身近な人々、社会及び自然等と直接関わることや気付いたこと・楽しかったことなどを表現する活動を大切にする学習活動が行われており、言葉と体験を重視した改訂の趣旨が概ね反映されているものと考えることができる。

○　一方で、以下のような点については、更なる充実を図ることが期待される。

活動や体験を行うことで低学年らしい思考や認識を確かに育成し、次の活動へつなげる学習活動を重視すること。「活動あって学びなし」との批判があるように、具体的な活動を通して、どのような思考力等が発揮されるか十分に検討する必要がある。

このように言葉と体験を重視した学習活動については、おおむね反映されている。その一方で次の活動へつなげる学習活動を重視することが期待されている。本研究では、この「次の活動へつなげる学習活動」が重要であると考えた。児童自ら「これが知りたい。」「これがやりたい。」と主体的に活動し、友達と共に学ぶ中でその考えに触れ、自らの考えを新しくしたり、さらに良いものにしたりする学び合う授業を教師が行うことで、「次の学習も楽しみ。」「次はこんなことがしてみたい。」という「次の活動へつなげる学習活動」になるであろうと考えた。本研究で行った児童へのアンケート調査でも、活動や体験そのものは好きであるが、それを友達と共有していくことには４割程度の児童に苦手意識があり、次への学習活動につなげていこうとすることにも同様の傾向が見られた。

以上のことから、本研究では、児童が体験や活動を通して様々なことに気付くよう、教師が支援することで、一人一人が意欲や自信を高めていく。そこから一人一人の発見を共有し、考えを深めていく授業が教師により展開されることで、児童は自らが学んでいることを自覚する。教師の計画の下、児童が自ら学びをつくっていると感じることで、より生き生きと活動することができ、そこでの学びが深まったり、別の内容の学びへの意欲につながったりすると考えた。

そこで、研究主題を「主体的に学び合う児童を育成する指導の工夫」とし、教師の指導の充実を図る研究を行うこととした。

Ⅱ　研究の視点

研究主題を踏まえ、二つの視点を設定し、研究を進めていくこととした。

1　主体的な学びにつながる教材との出会いの工夫

児童は自ら進んで見通しをもった活動に取り組んだり、他者や対象と進んで関わったりすることが主体的な学びにつながると考える。そのためには、思いや願いを強くもって学習をスタートすることが必要である。そこで、教材との出会いを工夫することで「もっとやりたい」「聞いてほしい」「試してみよう」「なぜなのか調べよう」というような、自らの学びを新たな活動に生かし挑戦していこうという思いや願いが高まっていくのではないかと考えた。そして、自分の良さや可能性を生かして、意欲と自信をもって生活しようとする「主体的に学ぶ児童」を育成することにつながると考えた。

2　対話的で深い学びにつながる伝え合いの工夫

一人一人の発見を共有し、考えを深めることで主体的に学び合うことができると考える。そのためには、活動について他者と伝え合い交流することが必要である。そこで、自分自身の実感が伴った言葉にして表したり、様々な事象と関連付けて捉えようとしたりすることを助けるような教師の関わりをすることで、気付きの質を高めることが実現できると考えた。

Ⅲ　研究仮説

上記の視点から指導の工夫を図ることにより、研究主題に迫ることができると考え、以下のとおり、研究の仮説を設定した。

児童が思いや願いを実現したいと思えるように、教材との出会いの場面や自らの気付きを伝え合う場面において、教師の関わりの充実、改善を図ることで、主体的に学び合う児童が育つであろう。

Ⅳ　研究の方法

1　基礎研究

今後の生活科の方向性を明確にするために、「小学校学習指導要領　生活編」、「審議のまとめ」の分析を行った。

2　調査研究

生活科の学習状況を知り、授業を改善するための調査・分析

①　都内Ａ区、Ｂ区の第２学年、第３学年学習状況調査における回答の分析

②　部員所属校３校の第１、２学年児童（約６００人）に対し、質問紙による調査

3　実践研究

二つの研究の視点が有効であるかについて検証を行った。

検証授業①　第１学年「みんなであそぼうはるなつあきふゆ～なつとなかよし～」

検証授業②　第２学年「はっけん　くふう　おもちゃ作り」

検証授業③　第２学年「うごく　うごく　わたしの　おもちゃ」

Ⅴ　研究の内容

1　研究構想図

小学校学習指導要領　生活科の目標

児童の実態

○　学習への興味・関心は高く、活動や体験に意欲的に取り組む一方で、一人一人の発見を共有し、考え深めていくことが不十分である。

○　「やってみたい、してみたい」という自己選択や自己決定ができていなかったり、自分の生活への広がりが不十分であったりしている。

目指す児童像

体験や活動を通して様々なことに気付く児童
一人一人の発見を共有し、考えを深める児童
自ら学びをつくり、生き生きと活動する児童

研究主題

主体的に学び合う児童を育成する指導の工夫

仮説

児童が思いや願いを実現したいと思えるように、教材との出会いの場面や自らの気付きを伝え合う場面において、教師の関わりの充実、改善を図ることで、主体的に学び合う児童が育つであろう。

基礎研究

○基礎研究（文献）
「主体的に学び合うこと」の捉え方の分析

調査研究

○調査研究（質問紙によるアンケート）
Ａ区・Ｂ区が実施した学習状況調査の分析及び部員の所属校における児童を対象とした「生活科の学習に関する実態調査」の

実践研究

３校で３回の授業実践を行うことを通して仮説の検証を行う。
【検証の視点】
①主体的な学びにつながる教材との出会いの工夫
②対話的で深い学びにつながる伝え合いの工夫

2　基礎研究

小学校学習指導要領解説生活編と「審議のまとめ」の分析を行い、「主体的に学び合うこと」の捉え方を明らかにした。

「審議のまとめ」において育成すべき資質・能力についてこれからの時代に求められる人間の在り方として以下のように示されている。

○　社会的・職業的に自立した人間として、郷土や我が国が育んできた伝統や文化に立脚した広い視野と深い知識を持ち、理想を実現しようとする高い志や意欲を持って、個性や能力を生かしながら、社会の激しい変化の中でも何が重要かを主体的に判断できる人間であること。

○　他者に対して自分の考えなどを根拠とともに明確に説明しながら、対話や議論を通じて多様な相手の考えを理解したり、自分の考え方を広げたりし、多様な人々と協働していくことができる人間であること。

○　自ら問いを立て、解決方法を探索して計画を実行し、問題を解決に導き新たな価値を創造していくとともに新たな問題の発見･解決につなげていくことのできる人間であること。

これらの事柄や生活科の目標を整理・分析し、本研究では、「主体的に学び合うこと」を次のような具体的な児童の姿として定義し、研究を行った。

・個の経験や知識を伝え合いながら、課題解決に向けて活動ができる。

・自ら課題を見付け、解決する過程を楽しみ、新たな活動につなげていくことができる。

3　調査研究

(1) 調査のねらい

本研究では、児童が学習活動についてどのような意識をもっているかを調査し、本研究の視点や具体的な指導の工夫を明らかにするために、都内二つの区が実施した学習状況調査の分析及び部員の所属校における児童を対象とした「生活科の学習に関する実態調査」を実施した。

(2) 調査項目と内容

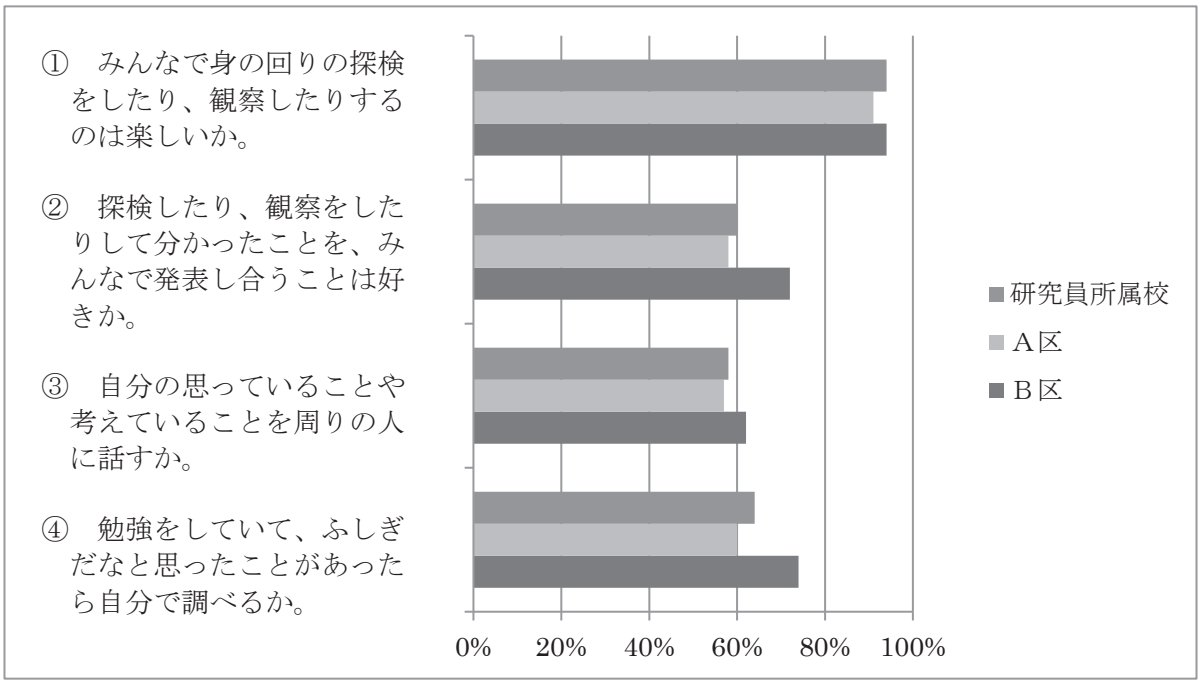
二つの区が実施した学習状況調査の中から、生活科に関する質問項目のうち、以下の４点について調査を行った。

①　みんなで身の回りの探検をしたり、観察をしたりするのは楽しいか。
②　探検したり、観察をしたりしてわかったことを、みんなで発表し合うことは好きか。
③　自分の思っていることや考えていることを周りの人に話すか。
④　勉強をしていて、不思議だなと思ったことがあったら自分で調べるか。

(3)　調査概要

調査期間	平成２８年７月
調査対象	研究員所属校３校
調査方法	質問紙による選択肢法

(4) 調査結果と考察



［グラフ１　生活科の学習に関する実態調査　肯定的な回答をした児童の割合］

調査結果から、児童は体験・活動を楽しいと感じている一方で、思ったことを伝え合う活動を苦手と感じている児童が少なからずいることが分かる。みんなで発表し合ったり、自分の思いを人に話したりすることについても肯定的な回答が体験や活動が楽しいと感じている児童に比べて少ない。加えて自ら課題を調べる児童の割合も比較して少ないことが分かった。これらの改善が主体的に学び合う児童の育成には不可欠であると考えた。

4　実践研究

本研究では、児童の主体的な学び合いのために、以下の二つの視点に着目し、授業実践を通して仮説の検証を行い、成果と課題を明らかにする。

① 主体的な学びにつながる教材との出会いの工夫
児童の「やってみたい、してみたい」という思いが生まれるような教材との出会い。
児童の経験や知識をもとに、自ら課題を見付け、解決することのできる教材の選択。

② 対話的で深い学びにつながる伝え合いの工夫
児童同士が気付きを「伝えてよかった」と思えるような表現活動の場を設定。
新たな活動につながるような、教師による児童の思いや気付きへの共感や価値付け。

検証授業１	第１学年「みんなであそぼうはるなつあきふゆ～なつとなかよし～」
検証授業２	第２学年「はっけん　くふう　おもちゃ作り」
検証授業３	第２学年「うごく　うごく　わたしの　おもちゃ」

検証授業１

１　単元名

「みんなであそぼうはるなつあきふゆ～なつとなかよし～」

〈単元の位置付け〉

児童の生活圏としての環境に関する内容

(1)学校と生活

(2)家庭と生活

(3)地域と生活

自らの生活を豊かにしていくために低学年の時期に体験させておきたい活動に関する内容

(4)公共物や公共施設の利用　(5)季節の変化と生活

(6)自然や物を使った遊び　(7)動植物の飼育・栽培

(8)生活や出来事の交流

自分自身の生活や成長に関する内容

(9)自分の成長

内容(5)　身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに気付き、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする。

内容(6)　身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使うものを工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付き、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。

単元の目標　身近な夏の自然を利用して遊ぶ活動を通して、自分と夏の自然との関わりに関心をもち、遊びや自分たちの生活を工夫し、それを素直に表現するとともに、みんなで遊ぶ楽しさや身近な夏の自然の良さに気付くことができる。

〈具体的な視点〉

- 健康で安全な生活
- 身近な人々との接し方
- 地域への愛着
- 公共意識とマナー
- 生産と消費
- 情報と交流
- 身近な自然とのふれ合い
- 時間と季節
- 遊びの工夫
- 成長への喜び
- 基本的な生活習慣や生活技能

指導計画（全８時間）

○「はっけん！１ねんせいのなつ！！」（1）

・常時活動や、生活経験を振り返り、夏と仲良くなる遊びを計画する。

○「なつとなかよくなろう」（4）

・みんなで話し合って決めた遊びを、みんなで楽しむ。

・興味関心を基に決めたグループで、遊びを工夫して楽しむ。

・遊びの中で気付いたことを表現し合う。

○ありがとう、１ねんせいのなつ（3）

・7月と比べて変わったことを伝え合い、秋が来ていることに気付く。

・楽しかったことを表現し合い、1年生最後の夏の遊びをみんなで楽しむ。

〈主な学習対象〉

- 学校の施設
- 学校で働く人
- 友だち
- 通学路
- 家族
- 家庭
- 地域で働く人
- 公共物
- 公共施設
- 地域の行事・出来事
- 身近な自然
- 身近にあるもの
- 動物
- 植物
- 自分

〈児童の実態〉

○スタートカリキュラムを通して、自分たちで何でもしたいという意欲をもっている。

○身近なものを使って工夫して遊ぶ経験は不足している。

〈教師の思いや願い〉

○経験を引き出して活動計画を立てたり、活動ごとに充実感を味わったりすることで、主体的な態度を育てたい。

○活動の連続性と多様性を確保するために、常時活動の充実に努め、一人一人の思いが作用し合う生活科の授業にしたい。

○季節を生かして遊ぶことができる児童に育ってほしい。

2　単元の評価規準

	ア　生活への 関心・意欲・態度	イ　活動や体験についての 思考・表現	ウ　身近な環境や自分についての 気付き
単元の評価規準	自分と夏の自然との関わりに関心をもち、友達と関わりながら、みんなで楽しく遊ぼうとしている。	生活経験を基に夏の遊びの計画を立てたり、それらを振り返り楽しかったことを考えたりしている。	身近な夏の自然を利用して、友達と関わって遊ぶ楽しさや身近な夏の自然の良さに気付いている。
具体的な評価規準	①　自分と夏の自然との関わりに関心をもち、園での遊びや生活を振り返ろうとしている。 ②　友達と関わりながら、夏の遊びをみんなで楽しく遊ぼうとしている。	①　生活経験をもとに発展させて、夏の遊びの計画を考えている。 ②　単元全体の活動を振り返って、１年生最後の夏でやりたいことを考えている。	①　身近な夏の自然を利用して、友達と関わって遊ぶ楽しさに気付いている。 ②　身近な夏の自然の良さに気付いている。

3　研究主題との関わり

本単元で考えられる手だてとして以下の方法を考えた。

主体的な学びにつながる教材との出会いの工夫	対話的で深い学びにつながる伝え合いの工夫
A　常時活動において夏に対するネガティブなつぶやき（暑くて外に出たくない等）を集めておき、「夏と仲良くなりたい」という思いをもてるようにする。	D　児童の気付きや思いを深めるような問いかけをしたり、児童同士の発言をつないだりすることで学び合いを促す。
B　常時活動において夏に対するポジティブなつぶやき（お日さまがキラキラしている等）集めておき、「もっと夏と仲良くなりたい」という思いをもてるようにする。	E　ワークシートの工夫によって、友達の意見に関心をもち、気付きや思いを深められるようにする。
C　「夏探し」を公園や校庭ですることで、夏の良さに気付き、夏ならではの遊びをしたいという思いをもてるようにする。	F　思考ツールを使うことで、児童の気付きや思いを深めるような問いかけをしたり、児童同士の発言をつないだりすることで学び合いを促す。

4　単元の指導計画と評価計画（全８時間　本時第１時）

次	○児童の主な学習活動 ・予想される児童の思いや考え **・次につながる児童の思いや考え**	◇支援等（研究主題に関する手だて）　■評価
はっけん！1ねんせいのなつ！！（1）	・汗をかくからいやだな。 ・日焼けするからいやだな。 **・部屋の中で遊びたいな。** ○夏と仲良くなるために「夏の遊び」を計画する。本時 ・保育園では泥遊びをしていたよ。 ・水遊びも楽しかったよ。 ・砂場で川を作りたいな。 ・水鉄砲を作って遊びたいな。 **・ペットボトルを使って水鉄砲できそうだね。** ○実際に外で水遊びをする。 **・ルールとかを決めるともっと面白くなりそう。** **・みんなで遊んだら楽しそうだなあ。**	◇児童の思いや願いを高めるために、常時活動における児童のつぶやきをきっかけにして、単元をスタートする。（手だてA） ◇活動が思い描けるように園での生活経験を振り返らせる。 ◇活動を発展させるために、共通経験や園ごとの個性を大切にする。 ■自分と夏の自然との関わりに関心をもち、園での遊びや生活を振り返ろうとしている。【①―ア】 ◇具体的に計画できるように、休み時間などを使って遊びを体験させる。 ◇教師も一緒になって遊び、児童が積極的に思いや気付きを伝えられるように聞いたり言葉かけをしたりする。（手だてD） ◇夏の遊びへの思いが高まるように、考えた計画は教室掲示する。
なつとなかよくなろう（4）	○みんなで話し合って決めた遊びを、みんなで楽しむ。（2） ・水鉄砲になるもので遊ぼう。 ・泥団子作りをしよう。 ・お花の色水作りをしよう。 ○興味関心を基に決めたグループで、遊びを工夫して楽しむ。（1） ・水鉄砲で的当てゲームをしよう。 ・色水でお絵かきをしよう。 ○遊びの中で気付いたことを表現し、他のグループの遊びを楽しむ。（1） **・的を変えたら面白くなるかも。** **・わたしもやってみたいな。** **・夏とたくさん仲良くなれたね。**	◇共通体験となるように、みんなで遊ぶ。 ■友達と関わりながら、夏の遊びをみんなで楽しく遊ぼうとしている。【②―ア】 ◇遊ぶ中でもグループ移動を認め、多くの友達と関わる機会を作る。 ■生活経験をもとに発展させて、夏の遊びの計画を考えている。【①―イ】 ◇友達との関わりの中で、遊び方を真似したり、一緒に試したりできるように、適宜集まって遊び方を紹介し合う場を設定する。（手だてD） ■身近な夏の自然を利用して、友達と関わって遊ぶ楽しさに気付いている。【①―ウ】

ありがとう、1ねんせいのなつ（3）	○7 月と比べて変化を伝え合い、秋が来ていることに気付く。（1） ・鈴虫の声が聞こえたよ。 ・夕方涼しく感じるよ。 **・夏の遊びで楽しかったことを思い出に残したいな。** ○夏の遊びで楽しかったことを表現し合い、1 年生最後の夏の遊びをみんなで楽しむ。（2） ・1 年生の最後の夏遊びはみんなで楽しくやりたいな。 **・夏にありがとうの手紙を書きたい。** **・秋とも仲良しになりたいな。**	■身近な夏の自然の良さに気付いている。【②―ウ】 ■単元全体の活動を振り返って、1 年生最後の夏でやりたいことを考えている。【②―イ】

5　本時の学習（1／8 時）

(1) 本時のねらい

自分と夏の自然との関わりに関心をもち、園での遊びや生活を振り返ることができる。

(2) 本時の展開

	○児童の主な学習活動 ・予想される児童の思いや考え	◇支援等（研究主題に関する手だて）　■評価
導入 5分	○学習課題を把握する。 ・夏と仲良くするためにはどうしたらいいかな。 ・夏と仲良し大作戦を考えよう。 **なつとなかよしだいさくせんをかんがえよう**	◇児童の思いや願いを高めるために、常時活動における児童の「夏は暑くて外で遊びたくない」等のつぶやきを常時掲示に残しておき、それをきっかけにして、単元をスタートする。（手だてA）

展開① 15分	○夏の自然と関わるために「夏の遊び」を計画する。 ・泥遊びをしていたよ。 ・泥遊びは水を使うから気持ちいいよね。 ・水遊びは楽しかったよ。 ・水鉄砲で遊びたいな。 ・プールで遊んだよ。 ・砂場で川を作りたいな。 ・水鉄砲を作って遊びたいな。 ・友達に水をかけないルールが必要だね。	◇「なかよくなる」イメージをもたせるために、今までの生活科での既習体験をもとに考えさせる。 ◇活動が思い描けるように園での生活経験を振り返らせる。 ◇園ごとの経験の差異に気付かせるために、意見を詳しく問いかけ、板書でカテゴリー分けをしていく。 ◇夏の自然から観点がずれないように、「夏と仲良くなれるか」という視点で振り返らせる。 ◇決まった作戦を次時から展開するために、短冊に書いていく。 ◇計画が実行していくために、休み時間や授業時間に遊びを行うためのルールを考えさせる。 ■自分と夏の自然との関わりに関心をもち、園での遊びや生活を振り返ろうとしている。（観察）【①―ア】
展開② 15分	○実際に外で水遊びをする。 ・水がかかって冷たいけど、いやじゃないよ。 ・●●さんが、上手に飛ばしていたよ。 ・遠くに水飛ばす、ペットボトルを押すといいよ。 ・みんなで遊ぶと楽しいよ。 ・夏のこと、少しは詳しくなったよ。 ・次は何をして仲良くなろうか。	◇活動を振り返れるように、探検ボードにワークシートを付けて持っていくようにする。 ◇児童同士が関わりをもちやすいように活動範囲は中庭だけとする。 ◇教師も一緒になって遊び、児童が積極的に思いや気付きを伝えられるように聞いたり言葉掛けをしたりする。（手だてD） ◇活動時間を十分に取り、もっと遊びたいという意欲を高めるようにする。
まとめ 10分	○学習の振り返りと次の活動計画を考える。（ワークシート） ○計画した「夏の遊び」をみんなで実行することを知る。	◇ワークシートに記入している内容に対して何のための活動なのか問いかけることで、「なつとなかよしだいさくせん」の目的意識を高める。 ◇遊ぶ日を知らせて、必要なものを考えさせることで、児童の意欲を高める。

6　検証授業を振り返って

(1) 主体的な学びにつながる教材との出会いの工夫

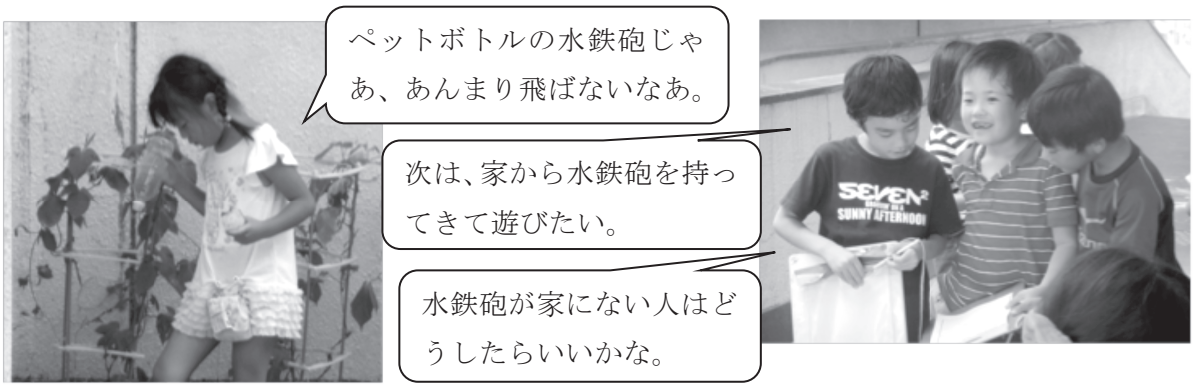
A　常時活動において夏に対するネガティブなつぶやき（暑くて外に出たくない等）を集めておき、「夏と仲良くなりたい」という思いをもてるようにする。

児童の休み時間の過ごし方や夏に関係するつぶやきを学級全体の話題として取り上げた。常に季節に対する意識をもたせたることで、「夏となかよくなりたい」という課題が明確となり、活動への意欲が高まった。

それにより「外でドッジボールは楽しかったけど、汗でベタベタだし、のどがからからだよ。」と発言した児童から、「暑い夏ともなかよくなるために、何ができるかな。何かみんなで考えたいな。」という発言が見られた。児童の思いを課題として設定することができ、児童一人一人が活動に対して必要感をもって、活動することができた。

(2) 対話的で深い学びにつながる伝え合い活動の工夫

D　児童の気付きや思いを深めるような問いかけをしたり、児童同士の発言をつないだりすることで学び合いを促す。



児童が遊びの中で困っていることや、楽しんでいることに対し、教師がどうしたら解決できるか、もっと楽しくできるか問いかけた。そうすることで児童が、次にどのような活動をしたいのかイメージをもつことができた。また、「家に水鉄砲がない」などの不安はその都度児童に発言させて、児童に解決策を考えさせることで、気付きが深まり「マヨネーズの空き容器を使って水鉄砲が作れる」などの新しい活動を生み出すことができた。

また、単元を通して「もっと楽しくしたい」「もっと友達にも伝えたい」という気持ちに共感しながらも、課題を浮き彫りにしたり、気付きを深めるような問いかけをしたりすることで活動がダイナミックなものとなり、活動に対する充実感も得ることができた。

安全に活動するためにはどうしたらいいかまで自分たちで考えて活動することができたよ！

以上の手だてを行うことで、児童が夏の自然の良さに気付き、もっと夏と関わっていこうとする姿が見られるようになった。

検証授業２

１　単元名　「はっけん　くふう　おもちゃづくり」

〈単元の位置付け〉

児童の生活圏としての環境に関する内容	自らの生活を豊かにしていくために低学年の時期に体験させておきたい活動に関する内容	自分自身の生活や成長に関する内容
(1)学校と生活 (2)家庭と生活 (3)地域と生活	(4)公共物や公共施設の利用　(5)季節の変化と生活 (6)自然や物を使った遊び　(7)動植物の飼育・栽培 (8)生活や出来事の交流	(9)自分の成長

内容(6)　身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使うものを工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付き、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。

内容(8)　自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかかわることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。

単元の目標　身近にある物を使って動くおもちゃや、音の出るおもちゃを友達と教え合いながら工夫して作り、遊ぶことを通して、おもちゃの動きの面白さや不思議さに気付き、楽しく人と関わることができる。

〈具体的な視点〉	指導計画（全９時間＋国語）	〈主な学習対象〉
健康で安全な生活	○「おもちゃを作ってみよう」(3)	学校の施設
身近な人々との接し方	・常時活動や、生活経験を振り返り、自分たちが遊んだことがあるおもちゃを思い出す。	学校で働く人
地域への愛着	・動くおもちゃや、音の出るおもちゃを作ってみる。	友だち
公共意識とマナー	○「おもちゃの　ひみつ　はっけん」(6)	通学路
生産と消費	・もっと楽しく遊ぶためにはどうしたらよいのか、よりよいおもちゃにするために工夫する。	家族
情報と交流	・友達のよいところを取り入れたり、本で調べたり、おもちゃ作りの名人に教えてもらったりしながら、もっと楽しいおもちゃ作りをする。	家庭
身近な自然とのふれ合い	・おもちゃの説明書（作り方と工夫したことや思ったこと、発見したこと）をまとめる。（＋国語）	地域で働く人
時間と季節	・おもちゃ大会を開く計画を立て、みんなで楽しむ。	公共物
遊びの工夫		公共施設
成長への喜び		地域の行事・出来事
基本的な生活習慣や生活技能		身近な自然
		身近にあるもの
		動物
		植物
		自分のこと

〈児童の実態〉

○夏休みの自由研究の中から、友達の作った作品で遊んだ経験があり、意欲をもっている。

○出来合いのもので遊ぶことをよくしており、自分でおもちゃを作る経験が少ない。

○目の前に材料があれば、喜んでものを作る意欲がある。

〈教師の思いや願い〉

○活動の連続性と多様性を確保するために、常時活動の充実に努め、一人一人の思いが作用し合い、新たな活動が生み出される生活科の授業にしたい。

○身近なものを使って、自分の普段の生活を楽しくすることができる児童に育ってほしい。

○友達と一緒におもちゃを作ったり、遊んだりする中で、教え合いを大切にする児童に育ってほしい。

2　単元の評価規準

	ア　生活への 関心・意欲・態度	イ　活動や体験についての 思考・表現	ウ　身近な環境や自分についての 気付き
単元の評価規準	身近な物を利用して作ったおもちゃやその遊びに関心をもち、みんなで楽しく遊ぼうとしている。	身近な物を利用して、動くおもちゃや音の出るおもちゃを考えたり、その遊びに使うものを自分なりに工夫したりして、遊んでいる。	動くおもちゃや音の出るおもちゃの面白さや不思議さ、その遊びに使うものをつくる面白さ、みんなで遊ぶ楽しさに気付いている。
具体的な評価規準	①　身近な物を利用した遊びや動くおもちゃ作りに関心をもち、友達と遊ぼうとしている。 ②　滑らかな動きやよりおもしろい動きへの思いや願いをもち、おもちゃを作ろうとしている。 ③　友達と関わりながら、みんなで楽しく遊ぼうとしている。	①　生活経験を基に発展させて、おもちゃ作りの計画を考えている。 ②　友達と比べたり、試したりしながらおもちゃを工夫して作っている。 ③　作ったおもちゃを使って遊ぶ中で、自分なりに遊び方を工夫している。	①　身近な物を利用して、動くおもちゃや音の出るおもちゃを作って遊べることに気付いている。 ②　おもちゃの動きの面白さや不思議さに気付いている。 ③　友達と関わって遊ぶ楽しさや、友達の良さ、自分との違いに気付いている。

3　研究主題との関わり

本単元で考えられる手だてとして以下の方法を考えた。

主体的な学びにつながる教材との出会いの工夫	対話的で深い学びにつながる伝え合いの工夫
A　児童の夏休みの自由研究の中から「動く」「音の出る」おもちゃで遊ばせてもらう。（常時活動）	E　素材の特性を見つけられた児童が「友達に伝えたい」という思いをもつための声掛け すごい、どうやったの／もう一度見せて／よく見付けたね／みんな驚くよ
B　教師が作ってきた単純な仕組みのおもちゃを教室に置いておき、自由に使わせておく。（常時活動）	F　一人で遊び続ける児童に友達との関わりを持たせるための声掛け 〇〇さんが同じことをしていたよ／〇〇さんと一緒にやってみたらどうかな／〇〇さんがやりやすそうだったよ
C　素材そのもので遊ぶ。（ゴム・磁石・風船・ペットボトルキャップ・乾電池）	G　なかなか遊び方が見つけられない児童が友達とともに活動するための声掛け さっき〇〇さんがこんなふうにしていたよ
D　教科書を見て、今までの経験を話し合う。	H　遊び方を見つけられた児童に対して他の児童に伝えたいと思わせるための声掛け 遊びができたね／楽しそう。先生にもやらせて

4　単元の指導計画と評価計画（全９時間　本時第１時）

次	○児童の主な学習活動 ・予想される児童の思いや考え **・次につながる児童の思いや考え**	◇支援等（研究主題に関する手だて）　■評価
おもちゃを作ってみよう（3）	○身の回りにある材料そのもので遊び、どんな動きが遊びに使えるか試す。（本時）（１） ・輪ゴムは伸ばしても元に戻ろうとするね。 ・キャップはコロコロ転がるよ。 ・磁石は、何かにくっつくね。 ・ペットボトルキャップはコロコロころがるね。 **・これをつかって何かおもちゃができないかな。** **・画用紙（素材以外の材料）がほしい。** **・持ってきたいものをメモしよう。**	◇素材そのものに十分に関わることができるよう、用意する材料は厳選する。（手だてＣ） ◇素材の特徴や、どのように遊べそうであるか理解できる声掛けをする。 ■身近な物を利用した遊びや動くおもちゃづくりに関心をもち、友達と遊ぼうとしている。（アー①）
	○身の回りの材料を使って、動くおもちゃや音の出るおもちゃを作り、面白さや不思議さに気付く。（１） ・簡単な材料で、楽しく遊べるものが作れるんだね。 **・うまく飛ばないなあ。** **・まっすぐ進むようにしたいなあ。**	◇おもちゃづくりに使えそうな材料を集めていく。自分が使うもの以外に使えそうなものは「材料銀行」へ預ける。 ■身近な物を利用して、動くおもちゃや音の出るおもちゃを作って遊べることに気付いている。（ウー①）
	○うまく動くおもちゃや、いろいろな音の出るおもちゃを工夫しながら作り、友達と比べながら楽しく遊ぶ。（１） **・もっとよく動くようにしたいな。** **・どうしたらうまくいくだろう。** **・図工の先生に相談してみようよ。**	◇動きを生かした遊びや音を出す仕組みのおもちゃを紹介する。 ■生活経験をもとに発展させて、おもちゃ作りの計画を考えている。（イー①） ◇活動が停滞している児童には、同じものを作っている児童と共に作ったり試したりしてみるよう促す。（手だてＧ）
	○身近なおもちゃ作りの名人に、おもちゃ作りのこつを教えてもらったり、友達と教え合ったり、自分で調べたりしながら、より工夫してマイおもちゃを作る。（２）	◇図工専科へ GT の依頼をする。 ■滑らかな動きや、より面白い動きへの思いや願いをもち、おもちゃを作ろうとしている。（アー②） ■友達と関わりながら、みんなで楽しく遊ぼうとしている。（アー③）

おもちゃの　ひみつ　はっけん（6）	・どうしたら、途中で曲がらないで走るようになるのかな。 ・図工の先生に教えてもらって、変えてみたら、速く動くようになったよ。 ・ちょっとかしてね。ここをこうするとよく動くようになるみたいだよ。 ○教えてもらったり、調べたりしたことをもとに、どこを工夫するか考えながらおもちゃを作る。（2） ・おもちゃ作り楽しかったな。 ・友達と遊ぶのも楽しかったな。 **・この作り方、○○（1年生・家の人）に教えたいな。** ○図工専科の先生にお礼をしたり、1年生や家族とやりたいことを話し合ったりして、自分の発見したことを報告書にまとめ、確かな気付きにする。（2）（国語科「おもちゃの作り方」）	■友達と比べたり、試したりしながらおもちゃを工夫して作っている。（イ－②） ◇活動が停滞している児童には、同じものを作っている児童と共に作ったり試したりしてみるよう促す。（手だてG） ◇国語科「しかけカードのつくり方」と連携する。 ■おもちゃの動きの面白さや不思議さに気付いている。（ウ－②） ■作ったおもちゃを使って遊ぶ中で、自分なりに遊び方を工夫している。（イ－③） ◇友達と関わって遊ぶとどんな気持ちがするか気付くことができるよう声を掛ける。 ■友達と関わって遊ぶ楽しさや、友達の良さ、自分との違いに気付いている。（ウ－③）

5　本時の学習（1／9時）

(1)　本時のねらい

身近な物（輪ゴム・磁石・ペットボトルキャップ・乾電池）を利用して遊ぶことを通して、それぞれの素材の特徴や、どのようなおもちゃが作れそうであるかを考え、動くおもちゃや音の出るおもちゃ作りに関心をもち、友達と遊ぼうとする。

(2)　本時の展開

	○児童の主な学習活動 ・予想される児童の思いや考え	◇支援等（研究主題に関する手だて）　■評価
導入　5分	○学習課題を把握する。 「これまでに、どんなおもちゃで遊んだことがありますか。」 ・ブロック　　・ゲーム ・こまのおもちゃ ・児童館の夏祭りで釣りをやったよ。	◇児童の思いや願いを高めるために、常時活動として夏休みの自由研究で児童の作ってきた作品を紹介し、遊ばせてもらう。（手だてA） ◇身の回りにあるもので遊びたいという意欲を高めるために、教師が児童の自由研究を真似して作らせてもらったものや、簡単に作れそうなおもちゃを1週間ほど前から3つほど教室に置いておき、自由に遊ばせておく。（手だてB）
	身の回りにあるものを、おもちゃにしてみよう	

展開① 15分	○身の回りにある材料（輪ゴム・磁石・ペットボトルキャップ・乾電池）そのもので遊び、どんな動きがおもちゃにできそうか試す。 「学校で集めてみたものを４種類、持ってきました。この中から一つを使って、何かのおもちゃにできるかな？」 ・磁石でどんなことができそうかな。試してみよう。 ・（やりながら）○○ちゃん、一緒にやろうよ。	◇座席を生活班グループの形にし、素材と関わりながら友達とも関われるようにする。 ◇材料ごとに場所を指定し、友達の遊び方を真似したり、一緒に遊び方を考えたりできるようにする。（手だてＣ） ◇ずっと一人で遊んでいる児童に声を掛け、友達に遊びを紹介して一緒にやるよう促す。（手だてＦ） ■身近な物を利用した遊びや動くおもちゃ作りに関心をもち、友達と遊ぼうとしている。（観察）（アー①）
展開② 20分	○素材ごとに、どんな遊びができたか発表する。 「発見した遊び方を発表しよう。」 ・ゴムは、伸ばして飛ばす遊びができたよ。 ・磁石はいろいろなところにくっつける遊びができた。 ・○○さんと磁石を一緒に使ってみて、二つだと近付けると離れて進ませる遊びもできたよ。 ○自分が選ばなかった素材で、友達の遊び方を試す。（→常時活動へ）	◇一度使っていたものを机に置き、黒板の近くに集まる。 ◇素材の特性に注目できるよう、特性に関する気付きを区別して板書する。（特性は色チョーク） ゴム…伸びる・もどに戻る・物を飛ばす・何かを飛ばす・ピンと張ってはじくと音がする 磁石…引き合う（くっつく）反発する（はじく・よける） ペットボトルキャップ…転がる・飛ばす・こまのように回す・上向きや下向きで立たせる・台にする・水に浮く・タイヤにする・二つで音を出す 乾電池…転がす・重りにする・立つ ◇「これでどんなおもちゃができそうかな。」と言葉かけをし、素材の特性を生かしたおもちゃ作りをしていこうとする意見を引き出す。
まとめ 10分	○おもちゃ作り日記を書き、おもちゃ作りへの思いを高める。 ・今日遊んでいないものでも遊んでみたいな。 ・ほかにも、おもちゃにできそうなものはないかな。探してみよう。 ・ももし図書館や、今川図書館で調べてみよう。	◇今日分かったこととこれからしたいことを書くように伝える。 ■身近な物を利用した遊びや動くおもちゃ作りに関心をもち、友達と遊ぼうとしている。（カード）（アー①） ◇おもちゃ作りに向けて、自分の作りたいものを決めるのと、材料集めをいつまでにするのか考えさせる。

6　実践を振り返って

(1) 主体的な学びにつながる教材との出会いの工夫

手だてＣ　素材遊びについて

児童は、「この素材をおもちゃにする」ことを考えながら、導入の１時間、十分に素材に触れ、試すことを繰り返していた。「ゴムは伸びて、その後もどる。」「磁石は、何かにくっつく。」「磁石同士だと、跳ね返ることもある。」「乾電池は、転がるおもちゃができそう。」など、素材の特性を焦点化したことで、児童は「〇〇の力を生かしたおもちゃをつくりたい」という意欲をもち、活動することにつながった。

また、自分が見つけた素材の動きや、おもちゃ作りをしていく中での発見を「発表したい。」と意欲的な発言も多く見られた。「作ったおもちゃで、みんなと遊びたい。」と学習活動を自分たちで考えていくことにもつながった。おもちゃ作りに素材の特性を使って、という部分が理解できることによって、低学年らしい思考も大切にしながら３年生以降の理科につながる学習とすることができた。

(2) 対話的で深い学びにつながる伝え合いの工夫

予想される児童の様子から、声掛けを考えておくことで、児童の意欲を高めたり、仲間と関わりながら遊ぶようにしたりすることができた。

例えば、導入の時間には、乾電池を普段あまり見たことがない児童が多いことから、予想より多くの児童が乾電池を試していた。そこではこまのように回し、ぶつけ合う遊びに終始してしまい、特性を多く発見することにつながりにくくなる場面があった。確かに「乾電池をおもちゃにする」ことで間違いはないのだが、素材の特性を生かしたおもちゃ作りをさせたいというねらいを教師側がもつことにより、「ほかの遊び方も発見できるかな。」「回る以外の力を見つけてごらん。」と声を掛けることができ、児童が転がることを利用して的を倒すボーリングの遊びを発見することにつながった。

この授業では素材のもつ特性を児童から引き出そうとすることで、褒めたり認めたりする声掛けに加えて、見つけた素材の特性を児童に自覚させる声掛けをすることができた。児童が目を輝かせて発見した特性を語っており、気付きを自覚させることにもつながっていた。

課題として、他のグループの発表に対する聞く意欲が薄かったことが考えられる。「面白いことができたよ。」「困っていることがあるからいい考えがあったら教えてほしいな。」という視点で伝え合いの場をもつと、さらに児童同士がつながることができるのではないかと考える。

検証授業３

１　単元名　「うごく　うごく　わたしのおもちゃ」

〈単元の位置づけ〉

児童の生活圏としての環境に関する内容
(1)学校と生活
(2)家庭と生活
(3)地域と生活

自らの生活を豊かにしていくために低学年の時期に体験させておきたい活動に関する内容	
(4)公共物や公共施設の利用	(5)季節の変化と生活
(6)自然や物を使った遊び	(7)動植物の飼育・栽培
(8)生活や出来事の交流	

自分自身の生活や成長に関する内容
(9)自分の成長

内容(6)　身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使うものを工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付き、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。

内容(8)　自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々と関わることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。

単元の目標　身近にある物を使って動くおもちゃや、音の出るおもちゃを友達と教え合いながら工夫して作り、遊ぶことを通して、おもちゃの動きの面白さや不思議さに気付き、楽しく人と関わることができる。

〈具体的な視点〉

健康で安全な生活
身近な人々との接し方
地域への愛着
公共意識とマナー
生産と消費
情報と交流
身近な自然とのふれ合い
時間と季節
遊びの工夫
成長への喜び
基本的な生活習慣や生活技能

指導計画（全１２時間）

○「おもちゃを作ってみよう」（３＋図工）
・常時活動や、生活経験を振り返り、自分たちが遊んだことがあるおもちゃを思い出す。
・動くおもちゃや、音の出るおもちゃを作ってみる。

○「おもちゃのひみつ　はっけん」（３）
・自分で作ったおもちゃで遊んだり、友達と遊んだりする。
・友達と比べたり、工夫したところを教え合ったりして楽しいおもちゃ作りをする。

○「あそび方を　くふうしよう」（６）
・ルールや遊び方、準備することなどについて話し合う。
・おもちゃ大会を開く計画を立て、みんなで楽しむ。
・１年生を招待して一緒に遊ぶ。

〈主な学習対象〉

学校の施設
学校で働く人
友だち
通学路
家族
家庭
地域で働く人
公共物
公共施設
地域の行事・出来事
身近な自然
身近にあるもの
動物
植物
自分のこと

〈児童の実態〉

○ふれあいタイム（縦割り活動）や昔遊びの会で作品を作り、遊んだ経験があり、意欲をもっている。

○図工以外の時間でおもちゃ作りや工作の経験が少ない。

○目の前に材料があれば、喜んでものを作る意欲がある。

〈教師の思いや願い〉

○活動の連続性と多様性を確保するために、常時活動の充実に努め、一人一人の思いが作用し合い、新たな活動が生み出される生活科の授業にしたい。

○身近なものを使って、自分の普段の生活を楽しくすることができる児童に育ってほしい。

○友達と一緒におもちゃを作ったり、遊んだりする中で、教え合いを大切にする児童に育ってほしい。

2　単元の評価規準

	ア　生活への 関心・意欲・態度	イ　活動や体験についての 思考・表現	ウ　身近な環境や自分についての 気付き
単元の評価規準	身近な物を利用して作ったおもちゃやその遊びに関心をもち、みんなで楽しく遊ぼうとしている。	身近な物を利用して動いたり音の出たりするおもちゃを考えたり、その遊びに使うものを自分なりに工夫したりして、遊んでいる。	動くおもちゃや音の出るおもちゃの面白さや不思議さ、その遊びに使うものを作る面白さ、みんなで遊ぶ楽しさに気付いている。
具体的な評価規準	①　身近な物を利用した遊びや動くおもちゃ作りに関心をもち、友達と遊ぼうとしている。 ②　滑らかな動きや、上手な動きへの思いや願いをもち、おもちゃを作ろうとしている。 ③　友達と関わりながら、みんなで楽しく遊ぼうとしている。	①　生活経験をもとに発展させて、おもちゃ作りの計画を考えている。 ②　友達と比べたり、試したりしながらおもちゃを工夫して作っている。 ③　約束やルールを考え、遊びを作り出している。	①　身近な物を利用して、動くおもちゃや音の出るおもちゃを作って遊べることに気付いている。 ②　おもちゃの動きの面白さや不思議さに気付いている。 ③　友達とかかわって遊ぶ楽しさや、友達の良さ、自分との違いに気付いている。

3　研究主題との関わり

本単元で考えられる手だてとして以下の方法を考えた。

主体的な学びにつながる教材との出会いの工夫	対話的で深い学びにつながる伝え合いの工夫
A　児童の夏休みの自由研究の中から「動く」「音の出る」おもちゃで遊ばせてもらう。（常時活動）	F　素材の特性を見つけ、伝えられるようにする声掛け すごい！どうやったの？／もう一度見せて／よく見つけたね／みんな驚くよ
B　素材そのもので遊ぶ。（ゴム・磁石・風船・ペットボトルキャップ・乾電池）	G　遊び方が見つけられるような声掛け さっき○○さんがこんなふうにしていたよ
C　教科書を見て、今までの経験を話し合う。（生活　図工　国語）	H　友達とかかわって遊べるようにする声掛け ○○さんが同じことしていたよ／○○さんと一緒にやってみたらどうかな／○○さんが仲間を探していたよ
D　教師が作ってきた単純なおもちゃを教室に置いておき、自由に使わせておく。（常時活動）	I　気付きを深めるための声掛け 遊びができたね／楽しそう！先生にもやらせて！○○さんもやってみようよ
E　たてわり班や昔遊びの会で作ったおもちゃの紹介（特別活動　行事）	J　遊びの場と聞き合う場を設定 遊ぶときには、同じ遊びが近くなるようにし、聞きあうときと場を分けて切り替えができるようにする。

4　単元の指導計画と評価計画（全１２時間　本時第４時）

次	○児童の主な学習活動 **・次につながる児童の思いや考え**	◇支援等（研究主題に関する手だて）　■評価
うごくおもちゃをつくろう（3）	○身の回りにある材料そのもので遊び、どんな動きが遊びに使えそうか試す。 **・せえので飛ばそう。** **・これにぼうを付けて遊びたいな。** **・輪ゴムを使って何かおもちゃができないかな。** **・画用紙がほしい。** **・持ってきたいものをメモしよう。** ○身の回りの材料を使って、動くおもちゃや音の出るおもちゃを作り、面白さや不思議さに気付く。 **・もっと、動くようにしたいな。** **・友達と一緒に考えてみたいな。**	◇児童が素材の動きの良さが発見できるよう、用意する材料を厳選する。（手だてＢ） ◇素材ごとに遊びゾーンを作り、友達同士で素材の動きに着目できる場を作る。（手だてＢ） ■身近な物を利用した遊びや動くおもちゃづくりに関心をもち、友達と遊ぼうとしている。（ア－①） ■身近な物を利用して、動くおもちゃや音の出るおもちゃを作って遊べることに気付いている。（ウ－①） ◇今後の活動に工夫や気付きが見られるように、動きを生かした遊びや音を出すおもちゃを紹介する。 ■生活経験を基に発展させて、おもちゃ作りの計画を考えている。（イ－①）
おもちゃのひみつはっけん（3）	○うまく動くおもちゃや、いろいろな音の出るおもちゃを工夫しながら作り、友達と比べながら楽しく遊ぶ。（本時） ○友達と教え合ったり、自分で調べたりしながら、より工夫してマイおもちゃを作る。 ○教えてもらったり、調べたりしたことをもとに、どこを工夫するか考えながらおもちゃを作る。	■なめらかな動きや、上手な動きへの思いや願いをもち、おもちゃを作ろうとしている。（ア－②） ■友達と比べたり、試したりしながらおもちゃを工夫して作っている。（イ－②） ◇輪ゴムの数を増やしたり、おもりの重さを調節したりするなどの材料の特徴を生かした工夫を価値付け、自覚化させる声掛けを行う。（手だてＦ） ■おもちゃの動きの面白さや不思議さに気付いている。（ウ－②）
あそび方をくふうしよう（6）	○みんなで楽しく遊ぶためにルールや遊び方、準備することなどについて話し合う。 ○みんなで遊ぶために、おもちゃや会場の準備をしたり、遊び方の紹介ポスターなどを作ったりする。 ○遊びながら、おもちゃを改良したり、さらに楽しくするためのルールを考えたりする。 ○作ったおもちゃを使って「遊ぶ会」をする。 ○みんなで遊んだり、友達に教えてもらったりしたことを振り返る。	◇１年生に楽しく遊んでもらおうという思いをもつために、同じようなおもちゃを作った児童同士がグループを作って話し合いをする。 ■約束やルールを考え、遊びを作りだしている。（イ－③） ◇ふれあいフェスタでの経験を思い出させ、１年生を招待して一緒に遊べるように、みんなで楽しく遊ぶ方法を考えさせる。 ■友達と関わって遊ぶ楽しさや、友達の良さ、自分との違いに気付いている。（ウ－③）

5　本時の学習（４／１２時）

(1) 本時のねらい

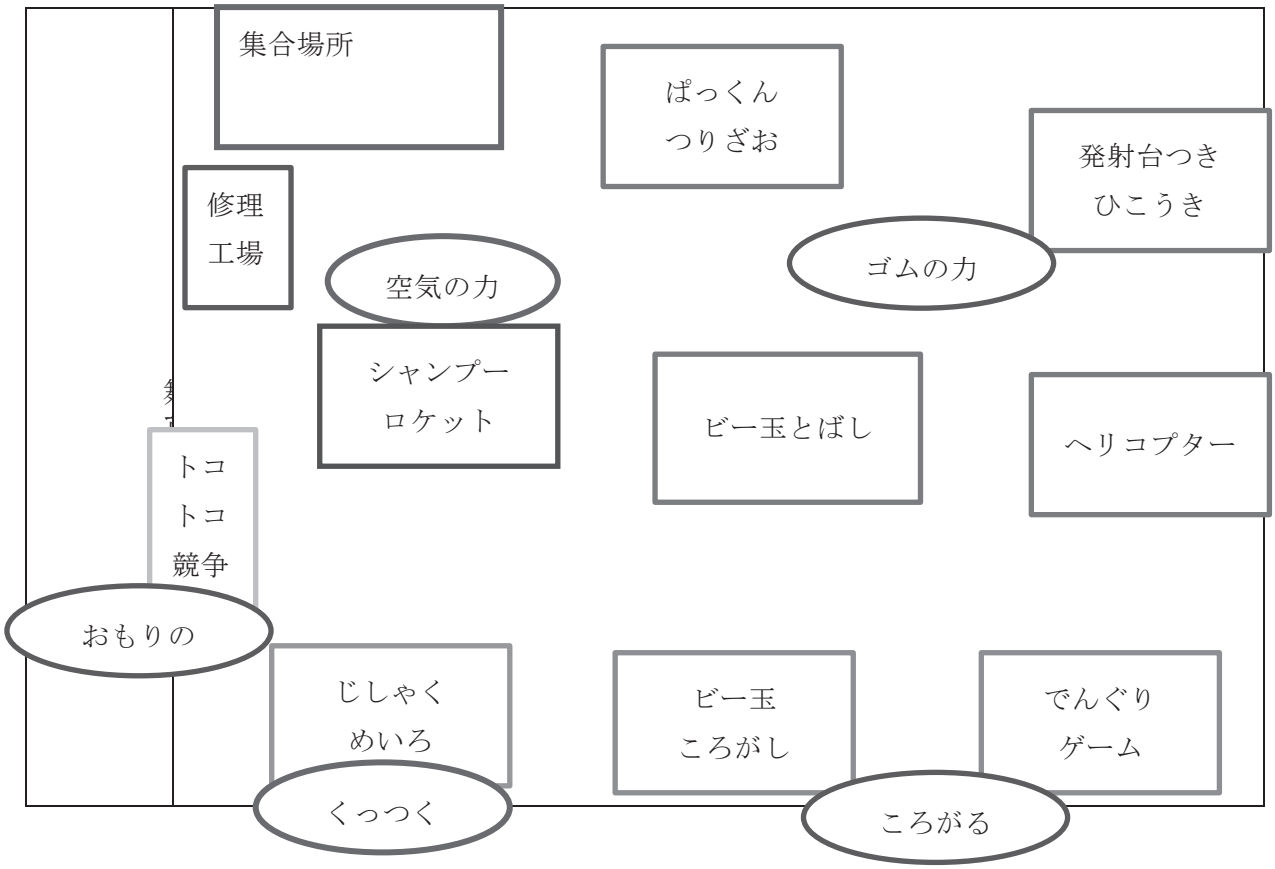
友達とおもちゃで一緒に遊び、比べたり、工夫したところを伝え合ったりして、さらに自分のおもちゃを改良しようとする。

(2) 本時の展開

	○児童の主な学習活動 ・予想される児童の思いや考え	◇支援等（研究主題に関する手だて）　■評価
導入 5分	○学習課題を把握する。 「作ったおもちゃを広い場所で試したくなってきたね。」 ・自分のおもちゃがよく動くのを見せたいな。 ・一緒に競争してみたいな。 ・○○さんはどうやって作ったのかな。	◇前時までに、自分のおもちゃをしっかり完成させておき、自分のおもちゃの動きを試しておく。 ◇友達のおもちゃと比べることで、改良の視点がもてることを押さえる。 ◇「パワーアップ」などの言葉を使い、おもちゃの装飾よりも機能に目を向けられるようにする。遊ぶ目的をおさえ、次回につなげるためだということに気付かせる。
	つくったおもちゃで　あそぼう	
展開① 20分	○自分のおもちゃを試したり、同じおもちゃ同士で見せ合ったりする。 「友達同士でお話ししながら（アドバイスや感想）遊んでみましょう。」 ・ゴムを強く引っ張ると遠くに飛ぶよ。 ・勝つコツはあるのかな。 ・勢いよく飛び出すよ。	◇おもちゃに応じた遊び場所を設定する。 ◇おもちゃの面白い動きに注目できるように、問いかける。「とても速く動くんだね、すごい」「先生もやってみたいな」（手だてＦ、Ｊ） ■自分が作ったおもちゃだけでなく、友達のおもちゃに興味をもって、遊ぼうとしている。（観察）（アー①）
展開② 15分	○遊んで良かったところや良いアドバイスを共有する（伝え合いタイム）。 「遊んでみて、自慢したいことや困ったことなどを話しましょう。」 ・よく動くコツを教えてくれたよ。 ・みんながもっと良く動くには、どうしたらいいだろうね。 ○話したことを確かめたり、次にしたいことを考えたりするためにおまけチャレンジタイム。 ・本当だ。○○さんが言ったことがあっていたよ。	◇材料の良さに目を向けて活動をしていた児童に、「あの時に○○と言っていたね」と声掛けをし、全体で紹介できるように促す。 ■自分のおもちゃと友達のおもちゃを比べたり、競争したりする中で見つけた動きや作り方の違いについて友達と話し合っている。（観察）（イー①） ◇どんな動きにしたいのか、児童の思いを確かめるために声掛けをしたり、見とったりする。「遠くまで飛ばせるようにしたいんだね。」

まとめ 5分	○おもちゃ日記を書き、次回の自分のめあてをもつ。 ・もっと転がるように改良したいよ。 ・ゴムを増やしてみようかな。 ・坂道をつけてみようか。	◇児童の思いを引き出すために、おもちゃ日記を書く際には、話型提示とモデルを示す。 ■自分のおもちゃについて、「もっと速くしたい」など、どのように工夫したいかを書いている。（ワークシート）（イ－②）

(3) 場の設定



6　検証授業を振り返って

(1) 主体的な学びにつながる教材との出会いの工夫

手だてＢの素材遊びの工夫をすることによって、動きの楽しさを味わい、学習したいという思いをもつことができた。おもちゃの作り方を調べる際に、「これは、転がる力を使ったおもちゃだね。」というような児童の発言が見られた。自分たちの作りたいおもちゃの動きを意識した活動を行うことにつながった。

また、手だてＥのたてわり班での活動を思い出す声掛けをしたことで、「１年生やおうちの人を招待して一緒に遊びたい。」という思いや願いをもって活動に

取り組むことができた。学習に見通しがあり、意欲を高めたり、活動や気付きの質を高めたりすることができた。実際に、クラスで遊びの会をした後、1年生を招待しておもちゃパーティーを開き、そこでの成功と充実感から、保護者の招待へと児童の思いが高まっていった。

(2) 対話的で深い学びにつながる伝え合いの工夫

手だてＦ、手立てＩ　教師の声掛けによる気付きの深まりについて

児童がおもちゃで遊んでいる際、「どんなふうに動くの？」や「友達と競争すると楽しそうだね」などの疑問や賞賛の声掛けで、児童は生き生きと活動する様子が見られた。しかし、児童が「自慢したいな」「困ったところを助けて」というような思いを引き出すための教師の声掛けがまだ乏しかった。児童の活動への気付きを高めるために、「もっと楽しくなりそうだね」というような共感や期待の声掛けをさらに工夫することが必要であると感じた。

どんな風に飛ばすと遠くまで飛ばせるの？教えてほしいな。

ゴムの数を変えてみたら、よく飛ぶよ。ぼくは２本にしてみたよ。

手だてＪ　場の設定による伝え合いの工夫について

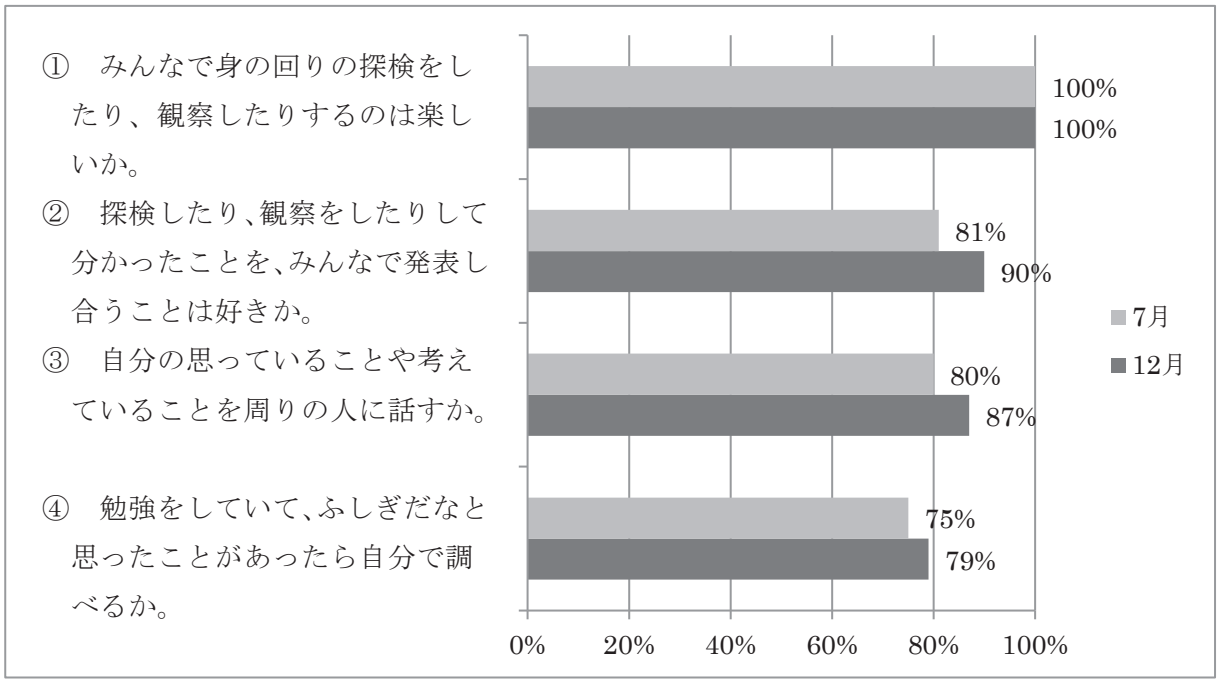
作ったおもちゃで遊ぶ活動の際、児童同士で遊びの工夫に気付けるような場の設定をした。また、伝え合いタイムでは、小さくまとまって話ができるような工夫をした。場の設定を工夫することで、児童が新しい遊び方を考えたり、おもちゃパーティーに向けての思いを高めたりすることができた。

どっちが高く飛ばせるか、競争してみよう。

単元を通して、児童は学習に見通しをもって活動することができた。自分たちで作り方を考えたり、遊びの仕方を工夫したりすることで、「もっと楽しくして、たくさん招待したいね。」という思いや願いをもつことができた。教師の声掛けによって、友達との伝え合いに、より深まりが見られた。

Ⅵ　研究の成果と課題

本部会では、部員所属学級を対象に「生活科の学習に関する実態調査」を７月及び 12 月に実施した。



［グラフ２　生活科の学習に関する実態調査　肯定的な回答をした児童の割合］

調査結果から、思ったことを伝え合う活動に肯定的な考えをもつ児童が増えたことが分かる。また、自ら課題を見つけ、新たな活動につなげることができる児童の割合も増加している。

教材との出会いの場面では、これまでの経験を基に「この活動はこうしてみよう」という発言や、「もっとやってみたい」「友達と一緒にやってみたい」などの発言が見られた。教材との効果的な出会いが、思いや願いをもって学習に取り組むきっかけとなった。

伝え合いの工夫では、教師が意識的に声掛けを行うことで、「ちょっと（友達に）聞いてみる」「一緒にやったら、もっとすごい遊びができたよ。」などの発言が見られるようになった。関わりやすさを感じ、友達と積極的に話すことで、さらなる気付きにつなげていくことができた。

以上の結果から、体験や活動を通して様々なことに気付き、共有して考えを深めたり、自ら学びをつくったり、生き生きと活動したりする児童が育成できたと考えられる。

しかし、学習を進めていく中で、個の学びがなかなか全体に広がっていかない場面も見られた。児童の学習活動の様子を的確にとらえ、気付きを深めたり、思いを引き出したりする声掛けについては、教師自身のスキルアップが求められている。的確な言葉、タイミングについては今後も研究を深めていく必要がある。

平成２８年度　教育研究員名簿

小　学　校　・　生　　活

学　　校　　名	職　名	氏　　名
新　宿　区　立　市　谷　小　学　校	主任教諭	野口　涼子
杉　並　区　立　桃　井　第　四　小　学　校	主任教諭	宇野真梨絵
町　田　市　立　南　つ　く　し　野　小　学　校	主任教諭	◎　竹下　侑希

◎　世話人

〔担当〕東京都教育庁指導部指導企画課
指導主事　　西　和昌

平成２８年度

教育研究員研究報告書

小学校・生活

東京都教育委員会印刷物登録

（平成２８年度第１４２号

平成２９年３月）

編集・発行　東京都教育庁指導部指導企画課
所　在　地　東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電話番号　（０３）５３２０−６８４９
印刷会社　株式会社オゾニックス

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。